〝薩摩川内市〟みらいアドバイザー

私たちが考えるまちの未来

※薩摩川内市みらいアドバイザーとは…

市は、持続可能で魅力的なまちづくりの推進に当たり、中高生の視点から必要な意見・助言を求めるため、本市の中学校や高校に在籍する方の中で、希望する方に薩摩川内市みらいアドバイザーとして委嘱をしています。

川薩清修館高校生が政策提言を発表

令和4年9月14日(水)、川薩清修館高等学校の5人の生徒が「みらいアドバイザー」として委嘱され、課外活動として探究活動に取り組んできました。

その成果をまとめ、11月14日(月)に同校では初めての取り組みとなる、「みらいアドバイザー政策提言発表会」が行われました。

2年生（テーマ：魅力あるまちづくりについて）

発表者 井上愛翔さん、満田百愛さん

内容 川内文化ホール跡地活用（親子３世代が集い、楽しみ、くつろげ、学べる施設とは）

問題・課題 集い・憩い・学びの場の不足

提案
- 音楽・食べ物フェスなどのイベント
- 中高生×高齢者の交流会
- フリーマーケット、料理教室　など

感想 本市は地元ですが、調べてみると知らないことも多かったので、考えるきっかけになりました。今回の提言が、大好きな市の緑あふれる豊かな自然や人々の温かさを生かした、より住みやすい魅力的なまちづくりに役立てばと期待しています。

1年生（テーマ：暮らしたいまち薩摩川内）

発表者 荒武優希さん、諏訪昊大さん、福田彩香さん

内容 転出しても、また戻ってきたいまちにするためには（人が集まるとまちの魅力になり、住みたいと思うきっかけに）

問題・課題 商店街や公園などにもっと人を呼びたい

提案
- 公園を子どもたちが遊びやすい芝生に
- ホッピー通りの延長
- 自転車の貸し出し　など

感想 自分たちの意見を直接、市へ伝えられてよかったです。人が集まると活気が出て、魅力を感じ、住みたいと思うきっかけの１つになると思います。提案が採用され、彩り豊かなまちになったら、ふるさとである本市に帰ってきたいと思います。

田中市長　講評

魅力あるまちづくりについては、どんなイベントがあればそこに人が集うのか、具体的なイベントの時期・回数まで提案いただき、実現性の高いものだと考えます。

また、人の温かさや人と人とのつながりを大事にすることが、イベント開催において大事だと改めて感じました。

暮らしたいまちづくりについては、市民や、市外・県外の人が集まる交流人口を増やすことが、行政の大きな政策であります。そのため、皆さまの身近な環境整備を含めた提案を参考にし、若い感性を取り入れて住みたい・帰ってきたいと思われるまちづくりを進めてまいります。

これからも、本市は持続可能で魅力的なまちづくりの推進を行うため、高校生の意見を求める活動に取り組んでまいります。
問合先／本庁企画政策課政策Ｇ（内線４８３４）

深発見 歴史文化遺産

第拾弐回 人類VS三尸の長き夜 絶対に負けられないサバイバル「庚申講」

薩摩川内には長い歴史の中で起きた物語、育まれた文化が数多くあります。このコーナーでは、数ある薩摩川内の歴史・文化の中から、とっておきのトピックスをご紹介します。

昨年、造立五百年を迎えた市指定文化財「今村庚申塔」。今回は、この庚申塔造立のきっかけとなる全国各地で行われていた「庚申講」をご紹介します。

庚申の日の夜に出現

「庚申」とは、暦における干支の組み合わせの一つで、60日に1回巡ってきます。中国の道教では、この庚申の日の夜に、人の体内に棲む三尸（上尸・中尸・下尸）という虫が、眠っている隙に体内から抜け出して、常日頃監視している悪い行いを天帝に報告し、その人の寿命を縮めると伝えられています。

絵：松元由香
（平佐西地区地域おこし協力隊）

三尸対策ミッションは「眠らない」それが庚申講

三尸は眠っている間にしか体内から抜け出すことができないため、庚申の日の夜は皆で集まり、眠らないよう夜通し過ごすのが「庚申講」です。

日本には、平安期までに伝わり、戦国期から江戸期にかけて全国各地に広まりました。そして、庚申講を行った成果として、供養塔（五輪塔や灯籠、石碑など）を造立し、それが今でも各地に残っています。

今村庚申塔
（田海町）

庚申講を今に伝える文化財

本市では、田海町の「今村庚申塔」や尾白江町の「尾白江庚申供養塔」、城上町の「松下田庚申塔」が市指定文化財となっています。また、東郷町南瀬の「南瀬観音古石塔群」の入口や、祁答院町下手の「良重寺跡石塔群」の入口にも庚申供養碑が佇んでいます。

今も残る庚申講

現在、庚申講は全国的にもほとんど行われることはなくなっていますが、福井県小浜市の小浜西区三丁町では、寿命の神として庚申堂が祀られ、各家の軒先には「身代わり猿」が掲げられています。

身代わり猿

庚申堂

次の庚申の日はいつでしょう？三尸が天帝に報告に行く必要がないよう、常日頃から良い行いを心掛けたいですね。

■文責・問合せ＝社会教育課文化財Ｇ（中央公民館内）☎(22)7251

市民とデザインする10年後の未来

第４回、第５回　薩摩川内市まちづくりデザイン会議

▲詳しい内容は市ホームページをご確認ください

薩摩川内市まちづくりデザイン会議とは…

本市のまちづくりの指針である「第３次薩摩川内市総合計画」の策定に向け、市民自身が長期的視点に立ち、市のあるべき姿を展望しながら、まちづくりについて調査・研究を行うために設置されたものです。（全６回を予定）

第４回、第５回まちづくりデザイン会議

10月16日(日)、市国際交流センターで第４回、11月12日(土)、本庁で第５回会議を開催しました。

第４回会議では、「ビジョンを実現するためのアイデアを出す」をテーマに、前回会議で検討した市の10年後のビジョンを実現するためのアイデアについて、意見交換を行いました。

出し合った意見について、投票などの手法を用いて、分科会の意見として集約しました。

地域で助け合える思いやりのあるまちづくり、交流の場・拠点づくり、仕事と娯楽が充実したまちづくり、市の魅力発信など意見が挙がりました。

第５回会議では、まず全体会議として、これまでの分科会での意見を参加委員全員で共有しました。その上で、「ビジョンを絞り込み、深める」をテーマに、これまでに検討したアイデアなどを、テーマごとに絞り込み、より具体的な（誰が・いつ・どこで・どのようになど）アクションプランを考えました。

「市民一人一人が町に誇りを持ち、本市の観光資源が発掘・再評価されるため、地元をよく知る方の知識を情報ツールに長けている若者と共有・拡散させる仕組みをつくる」、「おしゃれで若者が集まる町にするため、マチカドマルシェ（仮称）を開催する」など、さまざまなアクションプランが熱く語られました。

今後の予定

これまでの会議を通して検討を進めてきたことを、市への提言という形にまとめ、２月に実施する市民フォーラムで発表する予定です。

問合先／本庁企画政策課政策Ｇ（内線４８３３）